

水稲品種「にじのきらめき」の高品質安定生産に向けた 施肥技術と刈取適期

○高橋真史¹、上野直也²、石井利幸³（総合農業技術センター¹、中北農務事務所²、農業技術課³）

研究の背景

「にじのきらめき」の特徴

- ・「コシヒカリ」よりも**多収かつ高温に強い**
- ・多肥条件でも**倒伏の心配がない**



甲府盆地周辺の平坦地で導入が進んでいる



課題

- ① **収量と食味を両立できる適正な施肥管理技術が確立していない**
- ② **穂が葉の下に隠れやすいため、穂の黄化程度がわかりづらく、適期刈取を逃している**

方法・目的

解決策

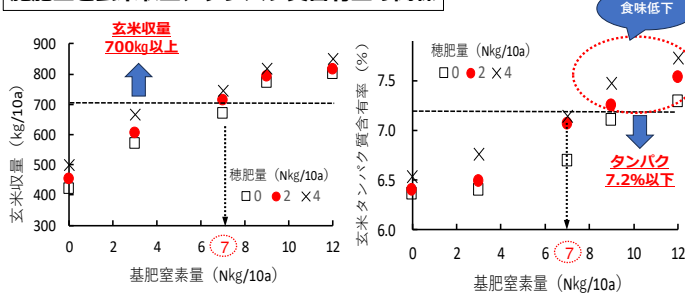
- ① **施肥技術**
施肥量や生育指標値（草丈×茎数×葉色/1000）と収量やタンパク質含有量、食味官能値の関係を検討
*目標値：坪刈収量700kg/10a以上、タンパク質含有量7.2%以下
- ② **刈取適期**
代表的な移植時期である6月上旬移植を念頭に出穂後の積算温度と籾の黄化程度、玄米収量、品質との関係を検討
*目標：最も多収、高品質な刈取時期を目指す

研究の目的

- 「にじのきらめき」における最適な施肥体系を明らかにする。
- 生産者が現場で活用できる刈取適期の目安を提示する。

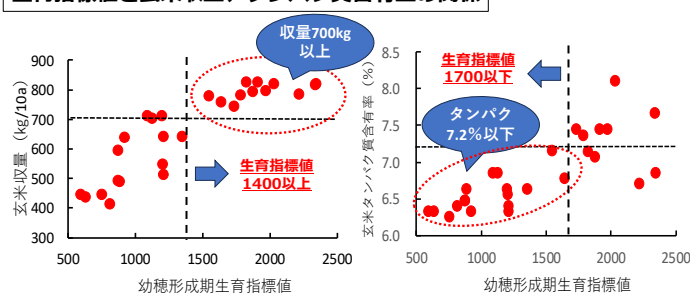
試験1 施肥技術の検討

施肥量と玄米収量、タンパク質含有量の関係



基肥7kg/10a+穂肥2kg/10a以上を施用することで
玄米収量700kg/10a、タンパク質含有量7.2以下を両立

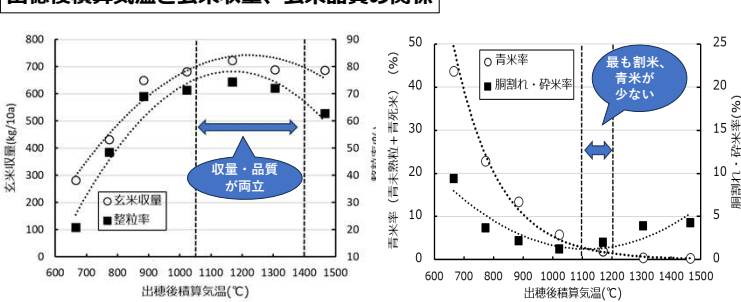
生育指標値と玄米収量、タンパク質含有量の関係



生育指標値1,400~1,700の範囲であれば
収量700kg/10a、タンパク質含有量7.2%以下を両立

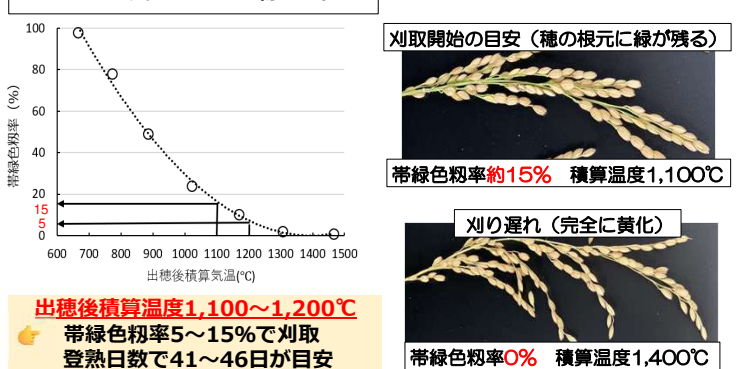
試験2 刈取適期の検討

出穂後積算気温と玄米収量、玄米品質の関係



6月上旬移植では出穂後積算気温1,100~1,200°Cの範囲であれば
玄米収量700kg/10a+整粒率70%（1等米の目安）を達成
青米率が5%程度かつ、胴割れ・砕米率を低く抑えられる

出穂後積算気温と帯緑色率の関係



試験の成果

適正な施肥によって、目標値を達成！

適正な施肥技術

基肥	幼穂形成期の基準	成熟期の目標値
7kg/10a (窒素成分量)	草丈 78~83cm	穂数 380~420本/㎡
穂肥 出穂20~25日前 2kg/10a (窒素成分量)	茎数 440~480本/㎡	総粒数 3.3千~3.7千粒/㎡
	葉色: SPAD 40~44 (葉色版: 4.8~5.3)	収量 700kg以上/10a
	生育指標値 (草丈×茎数×葉色/1000) 1400~1700	玄米タンパク質含有率 7.2%以下

適期に刈り取ることによって目標を達成！

移植時期	刈取適期の目安
6月上旬	積算温度: 1,100~1,200°C 帯緑色率: 5~15% 登熟日数: 41~46日
5月中旬*	積算温度: 1,050~1,150°C 帯緑色率: 10~20% 登熟日数: 38~42日
6月中旬*	積算温度: 1,100~1,250°C 帯緑色率: 5~20% 登熟日数: 42~49日

適正な施肥技術
+ 刈取適期



高品質安定生産

*5月中旬、6月中旬は試験2と同様の方法で刈取適期を調査した